

木住協 4号特例縮小の影響 対応に追われる工務店

（一社）日本木造住宅産業協会（略称・木住協、653社）は5月29日、東京の明治記念館で開いた令和7年度定時総会後の記者発表で、市川晃会長（住友林業会長）は、今年4月施行の改正建築基準法と建築物省エネ法に伴い縮小された4号特例について、「会員も対応に追われている」との見方を示した。

木住協には大手ハウスメーカーのみならず、地域の工務店も多数加盟している。同会長は、4号特例縮小に「関係、ハウスメーカーは以前より対応済みと見られる」と見方を示した。



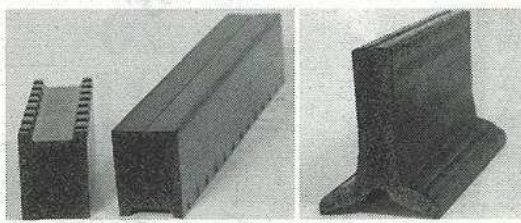
記者と会見する市川会長ら

石州の瓦百景が加入 石付金属屋根材も標準化

長期使用住宅部材標準化推進協議会（略称・長住協、北村浩幸会長）は、5月22日、2024年度定時総会を東京の赤坂セントラルビルで開催し、24年度は6社が新規加入した。

新規加入企業の中には石州産地の瓦メーカー、瓦百景（株）や、金属屋根材メーカーの大谷工業（株）、（株）オクマらも含まれる。いずれも賛助会員になった。

「兼棒（らくむね）」と「兼棒（けんぼう）」シリーズの販売を強化する。瓦屋根が減少する中、藤田社長は「瓦屋根の耐震化を、当社の商品で実現し、瓦復権につなげてほしい」と本紙に語っている。



「兼棒 HM4030 T」 「兼棒 II 型」

瓦屋根の耐震化図れ 人工木材「兼棒」と「兼棒」で

同会長はこのほか、人手不足や資材の物価上昇などで、住宅業界を取り巻く環境は厳しい状況にあるとし、「既存ストックの新陳代謝が本格化する時代となっている」とことを強調した。（5面に詳報）

「兼棒」は5種類の規格があり、強化棟芯材や軒先の瓦座にも最適な製品。同社長は人



金属屋根材を手にする道上社長

淡路産地の鬼瓦メーカー、（株）タツミ（南あわじ市、興津祐扶社長）の鬼瓦4点が、東京で開催される「和のあかり」百段階段2025（7月4日から9月23日まで開催）に展示される。会期中は、百段階段ミュージアムショップで同社の瓦小物の販売も行われる。

色も投入する。役物は、ケラバと棟包み、雨押さえ、平板は天然石チップ付きの専用、軒先水切りや捨てケラバ水切りなどは天然石チップなしのガルバリウム鋼板を用意している。

屋根下葺き材は、アスファルトです

アスファルト系屋根下葺き材には100年に及ぶ実績と信頼があります

一般社団法人 日本防水材料協会 アスファルト防水部会 〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町9番2号 日新中央ビル3F TEL.03-6661-9033 FAX.03-6661-9034

改質アスファルトルーフィング「ARK-04」の釘穴シーリングイメージ

3つの特徴

- 釘穴シーリング性
- 寸法安定性
- 低温折り曲げ性能

JWMA JAPAN WATERPROOFING MATERIALS ASSOCIATION